

〈原 著〉

# 成人看護学を受講する学生の学修の実態調査

—ポートフォリオに焦点をあてて—

堀川 新二<sup>1)</sup> 平松 美紀<sup>1)</sup> 岩本 利恵<sup>1)</sup>

## Survey of Learning of University Nursing Students When Using Portfolios in An Adult Nursing Course

Shinji Horikawa<sup>1)</sup>

Miki Hiramatsu<sup>1)</sup>

Rie Iwamoto<sup>1)</sup>

1) 活水女子大学看護学部

### 要 旨

成人看護学の講義を受講した学生を対象に、学修環境の実態、ポートフォリオ・目標達成シートに取り組む姿勢に対する課題価値を明らかにすることを目的とした。

調査は、対象とする科目の最終講義終了後に、研究者が研究の趣旨と方法について文書と口頭で説明し、質問紙調査を実施した。成人看護学科目を受講した2年生および3年生の延べ139名を対象とした。

その結果、課題価値の下位尺度「興味価値」と目標達成シート「学修意欲につながった」が有意な正の相関を認めた。学生は目標達成シートの活用で未達成の内容やさらに知りたいと興味をもった内容を今後の課題としており、学修したい内容が明らかになり興味価値につながったと思われる。本研究では紙ベースのポートフォリオであったが、パソコンを使用した学修に慣れている学生にとってはICTの活用が自主的な学修につながることも考えられる。今後はweb上でポートフォリオの活用を検討していく必要がある。

キーワード：ポートフォリオ 課題価値 学修環境 成人看護学 主体的学修

### I. 緒言

学生への学修支援において、学生が自ら学ぶ意思や意欲をいかに高めるかは重要である。文部科学省中央教育審議会による報告(2008)では、学習意欲の低下や目的意識の希薄化などが顕著となっており、大学教員を対象とする調査によれば、6割を超える教員が、「学力低下」を問題視し、特に論理的思考力や表現力、主体性などの能力が低下している<sup>1)</sup>と述べられている。このように、自ら目標を立てることができず主体的な学修態度が育っていない学生は多いと感じた。

大学教育の現場では、どのように授業を設

計するのか、どのように学生を評価するのかなどの具体的な実践手法が求められており、米国で開発された「優れた授業実践のための7つの原則」が再び注目されている<sup>2)</sup>。その原則の中でも「能動的に学習させる手法を使う」「多様な才能と学習方法を尊重する」というものがあり、学生の主体的な学修態度を認めて支援する必要性が示されている。A大学看護学部成人看護学領域では、事前学修にe-learningを活用することで、学生の主体的な学修を促してきた。しかし、指示された課題に対してe-learningを活用しているにすぎず、科目全体として主体的な学修ができてい

るとは言い難い現状であった。教員の指示に従って学修するのではなく、学生が自ら予習復習に取り組む姿勢を養うことが求められている。

主体的な学修を実践するための手法としてポートフォリオがある。ポートフォリオとは、自分自身が学修していくなかで日々考えたことや獲得した情報、成果や実績など、やってきたことがわかる資料などが入っているファイルを意味する<sup>3)</sup>。学生へのモチベーションアップや新しい評価手法として有効であり、看護の領域でも人材育成や目標管理にポートフォリオの導入が広がっている<sup>4)</sup>。先行研究では、ポートフォリオを活用した授業実践において主体的な活動を引き出すきっかけとなること<sup>5)</sup>や、主体的な学修態度の獲得を支援するための学修環境を整える仕組み作りの必要性<sup>6)</sup>が示唆されている。学生は、ファイルに蓄積された資料などで学修成果を振り返ることができる。さらに出来上がったファイルの内容が、今後の実習や学修で活かすことができ、目的をもって取り組むことができるため、学生の主体的な学修を支援するために、ポートフォリオは有効な手法だと思われる。一方、学生が課題発見や興味関心の広がりを体験できない場合は負担感のみが増し、かえって学習の妨げとなる<sup>5)</sup>との指摘もあり、ポートフォリオ導入時の課題と考えられる。

今回 A 大学看護学部成人看護学領域では、新カリキュラム 2 年次で受講する成人看護学方法論 I（急性期・回復期）・成人看護学方法論 II（慢性期）、旧カリキュラム 3 年次で受講する成人看護学援助論 II（慢性期・終末期）の 3 科目でポートフォリオを導入した。ポートフォリオでは、科目終了時にどう自分になっていたのかという目標を明確にし、ゴールへ向かうために何をすべきかを考え、それらを記入するゴールシートを準備し、学生が記入している。また、毎回の講義においてその講義の目標と達成度、今後の課題について記入する目標達成シートを準備した。ゴールシートや目標達成シートは、学生の目標、課題を明確にし、そのために何を学んだ

らよいかという問いを学生の中に持たせ、主体的に学ぶ姿勢を身につけることに有効であると言える<sup>7)</sup>との報告がある。目標達成シートを毎回の講義で記入することで、自分の学修すべき課題が明確になり、主体的な学修につながるという仮説の元に分析を行った。

学生の学修にとって、1 日の睡眠時間、家族との同居、寮生活、一人暮らしなどの生活状況、アルバイトの有無など、影響を与える要因と考えられることに加え、1 週間の学修時間を今回は学修環境として調査を実施した。

そこで本研究では、成人看護学の講義を受講した学生を対象に、学生の学修環境の実態、ポートフォリオに取り組む姿勢、ポートフォリオに対する課題価値を明らかにすることを目的とした。

## II. 用語の定義

ポートフォリオ：学生が、学修の目標達成のために得た情報や成果などの資料を入れたファイル。

課題価値：課題遂行においてその課題が有する価値であり、本研究では学んだ内容に対する価値の評価とする。

学修時間：講義演習を除く 1 週間の自己学修時間

学修環境：本研究では、家族と同居や寮、1 人暮らしなどの生活状況、1 日の睡眠時間、アルバイトの有無、1 週間の学修時間とした。

## III. 研究方法

### 1. 対象及び調査方法

A 大学看護学部で、成人看護学科目のうち新カリキュラム 2 年次で受講する成人看護学方法論 I（急性期・回復期）・II（慢性期）、旧カリキュラム 3 年次で受講する成人看護学援助論 II（慢性期・終末期）の 3 科目の受講生 205 名のうち、141 名回収（回収率 68.8%）、無効回答 2 名を除外した 139 名（有効回答率 98.6%）を分析対象とした。

調査は、対象とする科目の最終講義終了後に、研究者が研究の趣旨と方法について文書と口頭で説明し、自記式質問紙と封筒を配布

した。回答した質問紙は研究者が直接回収せず、1週間の留め置き法として回収箱に投函してもらい、投函された質問紙を研究者が回収した。

## 2. 調査項目

### 1) 学修環境

家族との同居、寮生活、一人暮らしなどの生活状況、1週間の学修時間（講義演習時間を除く）、1日の睡眠時間、アルバイトの有無

### 2) 課題価値

伊田<sup>8)</sup>の「課題価値測定尺度」を使用した。興味価値、私的獲得価値、公的獲得価値、制度的利用価値、実践的利用価値の5つの下位尺度で構成されている。「興味価値」は、学習することの楽しさや面白さを表す。獲得価値は、課題での取り組みや成功が望ましい自己スキーマ（図式、概念）の獲得に繋がるという価値を示し、その中でも、「私的獲得価値」はある内容を学習することで自分自身が望ましいと考える自己像を獲得できるという価値、「公的獲得価値」はその内容を学習することで他者から見て望ましいと考える価値を表す。利用価値は、その課題が将来の目標や希望する職業に関連しているという価値を示し、「制度的利用価値」は学習内容が就職や試験で合格するために必要であるという価値、「実践的利用価値」は学習内容が職業的な実践において役立つという価値を表す。計30項目で、「非常に当てはまる」～「あてはまらない」の7段階リカートスケールで回答を求め、下位尺度ごとに平均得点を算出する。得点が高い程、課題価値が高いことを示す。伊田<sup>9)</sup>により信頼性と妥当性が証明されており、本研究での下位尺度ごとのCronbach's  $\alpha$ 係数は0.920～0.937であった。

### 3) ポートフォリオに取り組む姿勢

ポートフォリオに取り組む姿勢を測定するため、独自に質問項目を作成した。ポートフォリオについて「学習意欲につながった」「ファイリングが面倒だった」「学びを客観的に見ることができた」「自分の成長が確認できた」「自分だけの参考書を作り上げた」「今後役立つものになった」の6項目、目標達成シ-

トについて「学習意欲につながった」「記入が面倒だった」「効果的に活用できた」「主体的に取り組むことができた」の4項目で、0～10のNumerical Rating Scale (NRS) で回答を求めた。数値が高いほどその気持ちが強いことを示す。Cronbach's  $\alpha$ 係数は0.831であった。

## 3. 分析方法

1週間の学修時間、1日の睡眠時間、課題価値測定尺度、ポートフォリオに取り組む姿勢について、平均値と標準偏差を算出し、記述統計として示した。課題価値測定尺度とポートフォリオに取り組む姿勢は信頼性分析を行った。調査項目間の関係はSpearmanの相関係数で検討した。アルバイトの有無と1週間の学修時間、1日の睡眠時間の群間比較はt検定で検討した。

分析にはSPSS Statistics Version 22を用い、有意水準は5%とした。

## 4. 倫理的配慮

本研究は、活水女子大学看護学部倫理審査委員会にて承認（承認番号15-54）後に実施した。対象学生に研究者が研究の趣旨および方法、研究の参加、不参加、中止はいつでも学業上の不利益と関係しないことを説明した。また調査票は無記名とし、データは匿名番号化して処理を行うため個人の特長はできないこと、データは本研究以外の目的では使用しないこと、研究成果について公表することを文書および口頭で説明した。回答を強要しないようにするため、質問紙は研究者が直接回収せず、1週間の留め置き法として回収箱に投函してもらい、投函された質問紙を研究者が回収した。調査票の提出及び回答をもって研究参加の同意とした。

## 5. 利益相反

本研究は2015年度活水女子大学看護学部共同研究費を受けて実施し、費用を公正に使用した研究であり、本研究の公正さに影響を及ぼすような利害関係は一切生じていない。

## IV. 結果

### 1. 対象者の概要

生活状況について、家族と同居している者は108名(77.7%)であり、寮生が16名(11.5%)、1人暮らしが15名(10.8%)であった。1週間の学修時間(講義時間を除く)の平均(標準偏差)は8.1(6.6)時間であった。睡眠時間の平均(標準偏差)は5.1(1.3)時間であった。学修時間と睡眠時間に相関は認められなかった( $r = -0.190$ )。アルバイトを「している」と答えた者は102人(73.4%)であった。(表1)

表1 学修環境 (N=139)

| 項目       | 人数  | 割合 (%) | 平均 ± 標準偏差 |
|----------|-----|--------|-----------|
| 生活状況     |     |        |           |
| 家族と同居    | 108 | 77.7   |           |
| 寮        | 16  | 11.5   |           |
| 1人暮らし    | 15  | 10.8   |           |
| 1週間の学修時間 |     |        | 8.1±6.6   |
| 1日の睡眠時間  |     |        | 5.1±1.3   |
| アルバイト    |     |        |           |
| している     | 102 | 73.4   |           |
| していない    | 37  | 26.6   |           |

ポートフォリオに取り組む姿勢についての質問項目平均値の比較では、ポートフォリオについて「ファイリングが面倒だった」、目標達成シートについて「記入が面倒だった」の平均値が最も高かった。次いで、ポートフォリオについて「今後役立つものになった」、目標達成シートについて「主体的に取り組むことができた」の順であった。(表2)

表2 ポートフォリオに取り組む姿勢についての質問項目と平均点 (N=139)

| 項目(得点範囲: 0~10)      | 平均値 ± 標準偏差 |
|---------------------|------------|
| ポートフォリオについて         |            |
| 1. 学習意欲につながった。      | 5.3±2.1    |
| 2. ファイリングが面倒だった。    | 6.7±2.6    |
| 3. 学びを客観的に見ることができた。 | 5.1±2.1    |
| 4. 自分の成長が確認できた。     | 5.4±2.1    |
| 5. 自分だけの参考書を作り上げた。  | 5.8±2.2    |
| 6. 今後役立つものになった。     | 6.3±2.3    |
| 目標達成シートについて         |            |
| 1. 学習意欲につながった。      | 5.3±2.3    |
| 2. 記入が面倒だった。        | 6.7±2.3    |
| 3. 効果的に活用できた。       | 5.7±1.9    |
| 4. 主体的に取り組むことができた。  | 5.9±1.9    |

課題価値の各下位尺度の平均点(標準偏差)は、得点が高い順で、制度的利用価値 28.2(7.2)点、実践的利用価値 28.2(6.9)点、興味価値 27.1(6.7)点、公的獲得価値 26.6(6.7)点、私的獲得価値 26.4(6.8)点であった。(表3)

表3 課題価値測定尺度の下位項目と平均点 (N=139)

| 項目(得点範囲)                         | 平均値 ± 標準偏差 |
|----------------------------------|------------|
| 課題価値測定尺度                         |            |
| 興味価値(6~42) ( $\alpha=0.924$ )    | 27.1±6.7   |
| 私的獲得価値(6~42) ( $\alpha=0.921$ )  | 26.4±6.8   |
| 公的獲得価値(6~42) ( $\alpha=0.920$ )  | 26.6±6.7   |
| 制度的利用価値(6~42) ( $\alpha=0.937$ ) | 28.2±7.2   |
| 実践的利用価値(6~42) ( $\alpha=0.936$ ) | 28.2±6.9   |

### 2. アルバイト有無の群間比較

アルバイトをしている学生がしていない学生より多かったが、学修時間( $p=0.851$ )、睡眠時間( $p=0.113$ )において両群間に有意差は認められなかった。

### 3. 学修時間とポートフォリオに取り組む姿勢・課題価値の関係

学修時間とポートフォリオに取り組む姿勢では、ポートフォリオの「自分の成長が確認できた」( $r=0.206$ ,  $p < 0.05$ )「自分だけの参考書を作り上げた」( $r = 0.208$ ,  $p < 0.05$ )「今後役立つものになった」( $r = 0.269$ ,  $p < 0.05$ )、に有意な弱い正の相関を認めた。(表4)

表4 学修時間とポートフォリオに取り組む姿勢の相関 (N=139)

| 項目                  | 学修時間    |
|---------------------|---------|
| ポートフォリオについて         |         |
| 1. 学習意欲につながった。      | 0.145   |
| 2. ファイリングが面倒だった。    | -0.101  |
| 3. 学びを客観的に見ることができた。 | 0.053   |
| 4. 自分の成長が確認できた。     | 0.206*  |
| 5. 自分だけの参考書を作り上げた。  | 0.208*  |
| 6. 今後役立つものになった。     | 0.269** |
| 目標達成シートについて         |         |
| 1. 学習意欲につながった。      | 0.164   |
| 2. 記入が面倒だった。        | -0.050  |
| 3. 効果的に活用できた。       | 0.295** |
| 4. 主体的に取り組むことができた。  | 0.203*  |

\*  $p < 0.05$  \*\*  $p < 0.01$  Spearmanの相関係数

学修時間と課題価値の下位尺度に相関は認められなかった。(表5)

表5 学修時間と課題価値の相関 (N=139)

| 項目       | 学修時間   |
|----------|--------|
| 課題価値測定尺度 |        |
| 興味価値     | 0.186* |
| 私的獲得価値   | 0.155  |
| 公的獲得価値   | 0.124  |
| 制度的利用価値  | 0.185* |
| 実践的利用価値  | 0.163  |

\* p<0.05 \*\* p<0.01 Spearmanの相関係数

#### 4. 課題価値とポートフォリオに取り組む姿勢の関係

課題価値の下位尺度とポートフォリオに取り組む姿勢のうち、ポートフォリオの5項目「学修意欲につながった」「学びを客観的に見ることができた」「自分の成長が確認できた」「自分だけの参考書を作り上げた」「今後役立つものになった」と目標達成シートの3項目「学修意欲につながった」「効果的に活用できた」「主体的に取り組むことができた」に有意な正の相関を認めた。また、目標達成シートの「記入が面倒だった」と課題価値の「私的獲得価値」「公的獲得価値」「実践的利用価値」に有意な弱い負の相関を認めた。(表6)

表6 課題価値とポートフォリオに取り組む姿勢の相関

(N=139)

| 項目                  | 興味価値     | 私的獲得価値   | 公的獲得価値   | 制度的利用価値  | 実践的利用価値  |
|---------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| ポートフォリオについて         |          |          |          |          |          |
| 1. 学習意欲につながった。      | 0.569*** | 0.460*** | 0.430*** | 0.419*** | 0.458*** |
| 2. ファイリングが面倒だった。    | -0.165   | -0.157   | -0.122   | -0.126   | -0.131   |
| 3. 学びを客観的に見ることができた。 | 0.437*** | 0.342*** | 0.373*** | 0.300*** | 0.362*** |
| 4. 自分の成長が確認できた。     | 0.507*** | 0.489*** | 0.434*** | 0.409*** | 0.450*** |
| 5. 自分だけの参考書を作り上げた。  | 0.452*** | 0.411*** | 0.417*** | 0.369*** | 0.417*** |
| 6. 今後役立つものになった。     | 0.521*** | 0.432*** | 0.390*** | 0.425*** | 0.457*** |
| 目標達成シートについて         |          |          |          |          |          |
| 1. 学習意欲につながった。      | 0.602*** | 0.528*** | 0.466*** | 0.420*** | 0.456*** |
| 2. 記入が面倒だった。        | -0.198   | -0.238** | -0.219*  | -0.162   | -0.235** |
| 3. 効果的に活用できた。       | 0.477*** | 0.427*** | 0.423*** | 0.401*** | 0.401*** |
| 4. 主体的に取り組むことができた。  | 0.555*** | 0.475*** | 0.426*** | 0.438*** | 0.434*** |

\* p<0.05 \*\* p<0.01 \*\*\* p<0.001 Spearmanの相関係数

#### V. 考察

2012年にベネッセ教育総合研究所<sup>10)</sup>が全国の大学1～4年生を対象に行った学習生活実態調査によると、大学生の講義の予復習や課題をやる時間(1週間あたり)の平均は2.8時間、医・薬・保健系統の学部では3.8時間と報告されている。本研究では学修時間の質問に講義の予復習や課題を行う時間という特定をしていないため、一概に比較はできないが、1週間の学修時間の平均は8.1時間と長かった。学修時間が長いことが効果的な学修につながるとは限らない。学修時間の確保ができているので、時間を有効に活用できるような学修の方法を指導していくことは重要である。

総務省統計局による2011年の社会生活基

本調査<sup>11)</sup>では、20～24歳の平均睡眠時間は7.6時間と報告されている。本研究の対象学生の平均は5.1時間であり、同世代と比べて睡眠時間が短いことがうかがえる。睡眠時間と学修時間の間に相関は認められなかったことから、学修が睡眠時間に与えている影響はないと思われる。アルバイトをしている学生がしていない学生より多かったが、学修時間、睡眠時間において両群間に有意差は認められなかったため、アルバイトが学修時間と睡眠時間に与える影響はないことも示唆された。学修やアルバイト以外に、サークルや趣味など様々なプライベートの活動時間が睡眠時間に関係していると考えられる。睡眠時間の長さにより健康を害し、それが学修に影響することも考えられるため、体調管理を指導

していくことも必要と思われる。

学修時間とポートフォリオに取り組む姿勢の関係では、学修時間が長さと、ポートフォリオの「自分の成長が確認できた」「自分だけの参考書を作り上げた」「今後役立つものになった」の平均値に正の相関を認めた。溝上<sup>12)</sup>は授業・授業外の学習をバランスよくおこなう学生が自らの成長を実感していると述べている。本研究の対象学生においても講義だけでなく講義以外の学修時間でポートフォリオに取り組んで出来上がったファイルの内容を振り返り、成長の確認ができたと思われる。また、目標達成シートに今後の課題を記すことで自ら行うべき学修が明確になり、講義以外の時間でも効率よく学修することができたと考えられる。

ポートフォリオについて「ファイリングが面倒だった」の平均値が最も高かったが、この項目と学修時間の間に相関は認められなかった。坂田ら<sup>5)</sup>は、講義資料を1冊のファイルに綴り整理するという課題は、主体的な活動を促す方法として有効ではあるが、学生が課題発見や興味関心の広がりを体験できない場合は負担感のみが増し、かえって学習の妨げとなると述べている。学生が面倒だと感じていることをふまえて、ファイル作成の目的を丁寧に説明し、導入時に明確な目標設定ができるように指導することが求められる。A大学ではICTを活用した学びの蓄積ができるwebシステムが導入されており、学生はパソコンやスマートフォンで利用できるようになっている。本研究ではファイルを用いた紙ベースのポートフォリオであったが、パソコンを使用した学修に慣れている学生にとってはICTを活用することで自主的な学修につながることも考えられる。今後はweb上でポートフォリオの活用を検討していく必要があると思われる。

主体的にポートフォリオの作成ができていない学生に対しては、目標達成シートに記入する今後の課題に対して、興味関心につなげることができるような助言をするなどのサポートが必要になってくると考えられる。学修

ができていないと思われる学生は、目標が明確になっていないことも考えられる。そのような学生には、目標達成シートに記載されている評価や今後の課題などが具体的に書かれているかを教員が確認し、目標設定ができるような個別指導を行い、学生が興味関心をもてるように導く必要もある。

ポートフォリオに対する課題価値は、制度的利用価値と実践的利用価値がともに28.2点で最も高かった。将来の職業実践について幅広く具体的に考えている人は、それだけ多くの学習領域において実践的利用価値を見出す可能性が高い<sup>13)</sup>。専門科目である成人看護学では、実践的な内容も学修するため、それらに関してポートフォリオにまとめたことが、看護実践に活かせるような役立つものになったと感じている学生が多かったと思われる。

ポートフォリオの「学修意欲につながった」「学びを客観的に見ることができた」「自分の成長が確認できた」「自分だけの参考書を作り上げた」「今後役立つものになった」と目標達成シートの「学修意欲につながった」「効果的に活用できた」「主体的に取り組むことができた」が課題価値の下位尺度と有意な正の相関を認めた。ポートフォリオに対する課題価値が高い学生は、科目終了時点で学修意欲や自己の成長の確認、今後役立つものになったという認識が高かった。ポートフォリオの活用は、自分の感じ方やものの考え方、情報収集力などの成長が見えることがモチベーションに通じる<sup>4)</sup>ことから、ポートフォリオに対する価値を見出すことにつながったと思われる。相関を認めた項目のなかでも、課題価値の下位尺度「興味価値」と目標達成シート「学修意欲につながった」が有意な正の相関係数( $r = 0.602, p < 0.001$ )を認めた。課題価値の下位尺度「興味価値」は学修することの楽しさや面白さを表しており、自律的な学習動機づけを構成する要素<sup>13)</sup>である。目標達成シートを活用し、毎回の講義で目標を設定して取り組むことが学修意欲につながり、学修することの興味価値を得てい

たとえられる。また、学生は目標の達成度を示し、達成できなかったことやさらに知りたいと興味を持った内容を今後の課題としていたため、目標達成シートの活用で学修したい内容が明らかになり興味価値につながったと思われる。

鈴木<sup>4)</sup>は、ポートフォリオの成功には、学生がポートフォリオに価値を感じることが必要であると述べている。そのためには目標設定が重要である。ただ単に成果物をファイルにまとめるのではなく、学生に応じた目標設定をすることで学修に対する自主性が生まれ、ポートフォリオという課題に対する価値が高まると思われる。本研究では、目標達成シートを活用することで、興味価値を高めることができていた。今後、さらにポートフォリオを充実していけるように、ICTを活用することで学生が自主的に取り組みやすい環境を整えることが求められる。そして、興味関心をもって予復習ができるような講義の構築や、導入後のフォローを続けていくことが必要である。

## VI. 結論

本研究は、成人看護学科目の受講生 139 名を対象に、学生の学修環境（1 週間の学修時間、1 日の睡眠時間等）の実態やポートフォリオに対する課題価値を調査し、以下の結果を得た。

1. 本研究の対象学生の学修時間は一般大学生と比較して長く、睡眠時間は同世代と比較して短かった。
2. 課題価値の下位尺度平均点は制度的利用価値と実践的利用価値が最も高かった。
3. 目標達成シートを活用し、目標を設定して取り組むことが学修意欲につながることが示唆された。
4. ポートフォリオを充実していけるように、ICT を活用することで学生が自主的に取り組みやすい環境を整えることが求められる。

## VII 研究の限界と今後の課題

本研究は、A 大学における成人看護学を受講する学生の学修の実態調査であり、これらの結果を一般化するには限界がある。今後、主体的な学修態度を支援できるように、さらなる改善が必要と思われる。

## 謝辞

調査にあたりご協力いただきました対象者の皆様、研究計画の段階でご助言くださいました活水女子大学看護学部石橋カズヨ教授に厚くお礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- 1) 文部科学省ホームページ，中央教育審議会大学分科会報告. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/080410.htm) (参照 2016-8-10)
- 2) 中井俊樹，中島英博：優れた授業実践のための7つの原則とその実践手法，名古屋高等教育研究，2005，Vol.5，p283-299
- 3) 鈴木敏恵：看護師の実践力と課題解決力を実現する ポートフォリオとプロジェクト学習，医学書院，2011，p2-42
- 4) 鈴木敏恵：ポートフォリオが看護教育を変える！与えられた学びから意思ある学びへ，看護教育，2007，Vol.48，No.1，p10-17
- 5) 坂田五月，佐藤道子，石塚淳子：看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践，聖隷クリストファー大学看護学部紀要，2013，No.21，p13-23
- 6) 久保善子，嶋澤順子，北素子他：ポートフォリオを用いた主体的学修態度獲得を支援するための教育の評価，慈恵医大誌，2014，Vol.129，p119-127
- 7) 深田あきみ，新橋澄子，下高原理恵，峰和治，李慧瑛，緒方重光：学生のリフレクションを促す経験型実習 - 主体的に学ぶ力を育成するための取り組み -，鹿児島大学医学部保健学科紀要，2015，

- Vol.25, No.1, p11-18
- 8) 伊田勝彦：課題価値評定尺度作成の試み，名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（心理発達科学），2001，Vol.48，p83-95
  - 9) 伊田勝憲：課題価値測定尺度の妥当性検討 - 自意識・達成動機と学習への動機づけとの関連 -，北海道教育大学釧路校研究紀要，2008，No.40，p41-48
  - 10) 第2回 大学生の学習・生活実態調査報告書 ダイジェスト版 [2012年]，ベネッセ教育総合研究所，<http://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3160>（参照 2016-8-10）
  - 11) 平成23年社会生活基本調査結果（総務省統計局）<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/gaiyou.htm>（参照 2016-8-10）
  - 12) 溝上慎一：「大学生生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討 - 正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す -，京都大学高等教育研究，2009，Vol.15，p107-118
  - 13) 伊田勝憲：教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討 - 自我同一性，達成動機，職業レディネスと課題価値評定との関連から -，教育心理学研究，2003，Vol.51，No.4，p367-377

## Survey of Learning of University Nursing Students When Using Portfolios in An Adult Nursing Course

### Abstract

The aim of this study is to explore the relationship of nursing students use of portfolios, the task value of commitment to their goals, and learning. The survey was completed by 139 second and third year university nursing students.

The results found a positive correlation between the students' task value's subscale of interest value and motivation to learn based on their goals. Using a portfolio with written goals created interest and guided their studies.

A paper based portfolio was used in this study. Introducing a web based portfolio needs to be considered in the future as students regularly use computers.

Keywords : portfolios, task value's, learning environment, adult nursing course, proactive learning